

岳連
ニュース

宝 永

URL: <http://www.shizuokam.com>

(一社)静岡県山岳・スポーツ
クライミング連盟

〒420-8076
静岡市駿河区八幡3-1-17
TEL(FAX) 054-288-7512
編集発行/総務委員会
令和6年3月11日発行

第46号

冬山技術の基礎習得 4年ぶり1泊2日の冬山講習会



第63回冬山講習会・第61回登山指導者講習会が4年ぶりに1泊2日で2月3日(土)、4日(日)にかけて富士山御殿場口双子山付近で開催された。講習会に先立ち事前担当講師の打ち合わせが行われ、体調確認は記録を取ることで、服装の注意点、携帯トイレ等の確認を行った。

講習会初日は雪なしで始まり、本部役員6名、講師11名、受講生では初級Bに2名、中級に3名、高校生46名、顧問7名合計75名の参加であった。11時から開講式が行い、岳連から滝田事務局長、県教育委員会から健康体育課榎本主幹のあいさつを受け、指導委員からの諸注意と担当講師の紹介があった。

講習会に先立ち西島指導員から、今日の気象情報、雪崩の起こる時期、斜面等話され、ビーコンの取り扱いが説明された。その後各クラスに分かれて16時まで講習会が行われた。高校生はテントの設営を1校のみにして、各生徒はその様子を見学して設営の手順を学び、各学校ごとに設営を行った。

私の担当する初級Bは3名にて講習会を開始した。まず健康チェック、服装の確認、冬山の装備等説明し早速歩きだした。雪がなく駐車場さらに沢筋に入っても砂、砂でした。砂の斜面を利用して、歩行訓練等を行う(靴が傷むよー)双子山の所々に雪が現れたのでピッケルの使用目的、使用方法等説明し、双子山を目指してトラーパス、直登を繰り返して頂上に登頂して



きた。下山には雪がある場所を見つけて、アイゼンを付けて歩行訓練をしながら初日の講習会を終了した。

二日目は前日と違って朝方から雪が降り徐々に

県高校・ユースボルダー競技大会 ユース世代レベルアップが顕著

(堀内 修)

静岡県高等学校・ユースボルダー競技大会が、1月8日にBINTI CLIMBING(静岡市)にて行われた。男子17名、女子13名が参加し、白熱した大会となった。

予選は80分間のセッション方式、男女共通の9課題と男女別の3課題、計12課題での実施。スラブからバルジまで、さまざまな課題が用意された中で、選手の対応力が試さ

積み始めて冬山ではなく雪山となり、それなりに講習会が行われた。高体連は雪上歩行、ピッケルとアイゼンの技術、中級は前日に引き続きロープテクニク、用具の説明等行い基本的な動作確認して終了した。

11時には各クラスが終了したので少し早めであるが11時30分から閉講式を行った。各講師からの講評があり、とにかく山を楽しむこと、そして安全な行動を心掛けてくださいと話があり2日間の講習会は無事終了することができた。

れた。男子は10完登1ゾーンの3選手を筆頭に6名、女子は11完登の2名を筆頭に7名が決勝へと駒を進めた。

決勝はオンサイト競技、4課題のベルトコンベアー方式で行われた。男子は4課題中2課題で完登者が出ず、上位3選手は2T2Zで横に並ぶ厳しい戦いとなった。1課題目は5人が完登、その中で4人が一撃。結果として

は3課題目を一撃した船越が1位、2トライの中川、3トライの宮川と続いた。女子は4課題中1課題で完登が出ず、アテンプト差で勝敗の鍵となった。結果として、1、4課題目を一撃した伊藤が1位、同課題で計5トライを要した狩野が2位であった。

男女ともユース世代が力を付けており、表彰された内の5名が中学生である。日本代表に選ばれる選手もいるため、今後の活躍が期待される内容であった。

(岩田幸裕)



JMSCA 登攀技術研修会・検定会 安全登山技術の研鑽を積む

JMSCA主催の令和5年度登攀技術研修会・検定会が令和5年11月4日、5日の二日間、浜松市西区領家公民館及び息（おき）神社境内において開催された。これは毎年各県が会場となり持ち回りで開催されていて、今年度は静岡県が会場となった。本県からはコーチ2の検定、講習会にそれぞれ2人ずつ参加した。参加者はJMSCA講師6人、静岡スタッフ5人を含む全42人で、中には岩手県や山口県、広島県、京都府等遠方からの参加もあった。



日中は、検定組と講習組に分かれて、領家公民館集会室で机上講習や神社の立木を利用したロープワークをじっくり実施。検定組は二日目の検定に向けて、細やかな手順の確認を行い、本郷講師から丁寧な指導を受けていた。講習組は、クライミング技術の第一人者である堤講師が指導を担当。厳しい言葉が投げかけられる場面があるも愛のある指導に、参加者達はみな積極的に氏の指導を受けていた。一つのミスでパートナーや自分の命に危険が及びかねないので、ロープワークは命がけの技術であるということ、改めて考えさせられた。

また途中、息神社宮司により安全登山のご祈禱を全員で受けるなど、地域の歴史や神社の謂れに触れるひと時もあった。夜は領家公民館集会室で夕食会を兼ねた懇親会が開催され、様々な地域から集まった参加者から差し入れの酒もあり、また

一人一人の自己紹介により、県を超えて山岳関係者同士が顔を合わせての貴重な交流会となった。宴は数時間に及び、講師陣も交えたざっくばらんな楽しいひと時を過ごすことができた。



しい）受けていた。二日間にわたって行われた講習会・検定会は天候にも恵まれ、事故・ケガも無く、無事に全日程を終了することができた。JMSCA講師陣の熱い指導のみならず、領家公民館を貸してくださり、息神社境内を使わせていただいた地元町内会の皆様、駐車場を貸してくださった重要文化財中村家関係者のご理解・ご協力に、厚くお礼を述べたい。

今回の研修会・検定会に触れ、山岳コーチを増やし、安全登山の意識を高め啓発すると共に、コーチ2の方による正しいクライミング技術の普及が、山岳事故を減らす一助になることかもしれないということを、改めて考えさせられた。

講習会では自己脱出の実技指導を堤講師から厳しく（前日よりだいぶ優しく）

（小林玲子）

男子堀岡女子永嶋 優勝

県高校クライミング大会

第24回静岡県高等学校クライミング競技大会が、第14回全国高等学校選抜クライミング選手権大会の予選をかねて、11月3

日（金）に、スクエアクライミングセンターにて行われました。8校16人（男子13、女子3）の生徒の参加があ

り、昨年同様人数的には少ない中でしたが、ルート1の完登および代表枠を目指して熱戦が繰り広げられました。



女子予選は5番壁を登るルート（12b）で永嶋さんと鈴木結菜さんが完登。男子予選はメイン壁右よりルーフを直上するルートで（12d）で鈴木大翔君と堀岡君が完登し、上位6名までが決勝に進みました。決勝女子は、人数が少なかつたため、男子予選ルートをフラッシュで登ることになり、永嶋さんが切れのある登りで見事完登し連続優勝を決めました。

男子決勝は、メイン壁右のカンテからルーフ下をトラバースしメイン壁上部にぬけるルート（12

d）で、3番目に登場した中川君が完登、鈴木大翔君、堀岡君も的確な登りで完登。タイム2秒差で堀岡君の優勝となりました。

12月23日24日に埼玉県加須市で行われる全国大会では、好成績と選手の間を期待したいと思えます。会場を提供していただいたスクエアさん、セットを担当していただいた瀧浪さん、および運営に協力してくださった多くの方々に感謝申し上げます。

全国大会出場者は以下の通り。
男子1位 堀岡隼人（静岡東）2位 鈴木大翔（藤枝西、シード）3位 中川琥太郎（池新田）女子1位 永嶋美智華（静岡西、シード）2位 鈴木結菜（静岡農業、シード）3位 鈴木奏羽（浜松学芸）

（諸戸 明）



JMSCA 安全登山指導者研修会 登山のプランニングとナビゲーション

「雪まで降り出したこんな状況でも先に行きたい、というメンバーの本音は何ですか？リーダーはそこを聞き出さなきゃ、メンバー全員が納得できる『判断』なんて下せませんよ。」

「この登山の目的は何ですか？地図読みですよ。先に行きたいというメンバーの目的は『磐梯山頂』なんです。そのことと帰りのバス時刻等、今から上り始めても山頂に着けない可能性が大きいことを示せば、皆さん納得して下るんじゃないですか？」

登山研修所講師の北村名工大教授から厳しい声



が響く。ここは磐梯山山頂下の弘法清水小屋。地図読み山行の終盤、途中から舞い始めた雪を避けるよう逃げ込んだ小屋内での一コマである。

令和5年10月20日、22日、安全登山指導者研修会(東部地区)が「国立磐梯青少年交流の家」で開催された。

初日の座学では北村講師より「登山のプランニング&PNC」についての講義を受けた。

①「登山計画」とは入山から下山するまでの「ハザード(危険因子)」と「リスク(被害の影響の大きさや確率)」を洗い出すことである。

②「引き返す」勇気はいらない：「プランB(目的地に行かない)」は、あらかじめ「立案」しておくべきこと。

③「PDCA」は回し続けてこそ価値がある。「行動を振り返り、次に生かす」ことをやり続ける。

④「登山客」ではなく「自律した登山者」を育

成し、共助・公助の態勢を整えよう等々。講習内容はグラフ等を活用して理解しやすいよう工夫されていた。

夜の講義は、豊川山岳会の登山研修所河合講師の「読図とナビゲーション」である。

冒頭にアプリ活用術が紹介された。「地図アプリ使用時は、自分で考えた末の『ボチ』であることが必須。『ジオグラフィカ』がお勧めだが、使いやすさは「YAMP」、「ヤマレコ」が一步抜けているとのことだった。

次に翌日の磐梯山登山の準備として、あらかじめ地図上でチェックすべき15箇所を指定し各点の特徴を整理した。明日、ここを歩いて「地図と現実」のズレを確認すること。コンパスを用いた「整置」を確実にマスターしておくことと課題が示された。

2日目はあいにくの曇り空、交流の家駐車場にて早速コンパスを用いた「整置」が始まった。そして、磐梯山登山口へ移動し登り始め、ポイント毎に正しいかどうかの

検証を行う。小さな沢地形を見逃した私は、ポイントを少し行き過ぎてしまい、正解に至らなかつた。そして冒頭の「小屋内でのやり取り」となり、「下山の判断」となった。3日間、緊張感が続く研修であった。講師の熱意が終始感じられた。実はもちろん、グループ討議においても常に我々受講生のそばに来て「理解しているか」、「不明な点はないか」等熱心に指導してくださった。内容の理解はもちろん、分かりづらい箇所の共有化

クライミングコンテスト11月大会 シード選手は予選免除で実施

令和5年度 2回目のクライミングコンテストが、11月23日(木)ブルーキャニオン(富士市)で行われました。

インフルエンザの流行などもあり、参加者は当初よりも少ない22名(男子12名、女子10名)となりましたが完登を目指して熱戦が繰り広げられました。

今回は、カテゴリーや経験・実績等を配慮して、



昨年(2023年)の3回と今年の1回目のリードのクライミング

が図られた。地元(福島県)岳連のフォーローが暖かかった。交流の家での生活全般や懇親会での振る舞いは、今後静岡での同イベント開催時の参考になると感じた。このような「おもてなしの心」も忘れずに今後に生かしていきたい。

登山者を指導する立場の方には中身の濃い内容で、是非参加してほしい。そんな機会を与えてくれた関係者の方々に、改めて御礼を申し上げます。(加藤敏美)

グコンテストで、6位に入ったことのある選手は、シード選手として予選免除としたことです。予選ルートを完登した選手とシード選手で準決勝が行われ(12d)5人が完登し7名が決勝へ、女子準決勝(ルーフ壁の12c)は堀内さんが唯一完登し、6位までは決勝に進んだ。決勝は男女共通で、ルーフ壁に引かれた最初から1手1手厳しいルート(13b)で、女子の最高点は12+で4人が並び、カウントバックで堀内さんが令和4年の3月大会以来の優勝を飾りました。男子にも厳しく、3名が21の中で+を獲得した船越君が去年に引き続き優勝し強さを見せました。大会運営をしていただいた多くの方々、ジムスタッフの方々に感謝申し上げます。結果は以下の通り。

男子 1位 船越琉生
2位 川口太造 3位 宮川幸大
女子 1位 堀内優里
2位 狩野 風 3位 山本唯菜

(諸戸 明)

平出和也・中島健郎講演会 ピオレドール賞受賞の世界的クライマー

平出和也・中島健郎講演会を、2月10日、静岡駅前「あざれあ」で開催しました。当初、午後開催のみでしたが、受付開始日早々満席になったため、講師2人のご厚意で午前の部、午後の部、2回に分けて開催することになりました。

ネーターとなり、未踏ルート挑戦の抱負、今後の計画について語ってもらいました。その後、来場者からの質疑応答で講演会を終えました。

当日は計150名が参加して大盛況でした。前半2人の経歴、これまでのヒマラヤ登攀記録の紹介、続いて、昨年夏のティリチミール北壁初登攀の記録映像をスクリーンに映しながらの講話でした。

平出氏はピオレドール賞を3回受賞した世界的クライマーであると同時に山岳映像カメラマンの先駆者でもあり、三浦雄一郎氏のエベレスト登頂、田中陽希氏のグレートトラバースなど数々の撮影に同行しています。また数多くの山岳ドキュメンタリー番組に出演しており、昨年夏のティリチミール北壁初登攀の記録映画「ROPE」がスペインの山岳映画祭で上映され、平出氏が現地に招かれました。また、中島健郎氏もピオレドール賞を2回受賞した有能なクライマーであると同時に、山岳映像カメラマンとしても活動しています。山岳ドキュメンタリー番組「ヒマラヤグレートトレイル」やバライティー番組「イッテQ」に出演、タレントト



井本アヤコさんを海外の

雪山登山教室 北八ヶ岳車山 視界悪く途中引き返す

今年度の雪山教室は場所を変えて北八ヶ岳 霧ヶ峰 車山にて行う事となりました。

中部縦貫道が整備されて県内から八ヶ岳方面までの時間が短縮されたのが要因です。

2月25日(日) 車山肩の駐車場に8時半前に集合、参加者は7名 講師2名の9人でした。天候は風と霧、視界100m程度でしたが積雪は少なく、用意したスノーシューは使わず アイゼン等を着けて出発。先日の好天で夏道は、融けた雪が再氷

山に登らせるなど活躍しています。

講演会終了後2人を囲んで懇親会を開催しました。出席者の各テーブルを回り交流するなど、気さくな一面を見せてくれました。今夏は未踏のK2西壁初登攀を目指すとのことで、世界を舞台に活躍する2人を今後も応援したいと思っています。

(出利葉義次)



今年度の雪山教室は場所を変えて北八ヶ岳 霧ヶ峰 車山にて行う事となりました。

結した上に新雪が少し積もった状態でしつかりしたトレースがある。

時間は充分にあるのでお互い雑談しながらゆっくりとしたペースで歩きました。

登るにつれて雲の中に入っていて、山頂のレーダードームが見えるころには視界50m程度になってしまっ



ドームの風下で休息した。これ以上進むのは危ないので山頂神社にお参りして引き返す事にします。この天気では仕方ない、全員納得したと思う。

往復2時間程度で終了して駐車場に戻る。物足りないので全員で音無し

(小林久二彦)

JMSCA基金募集

JMSCAでは、財政健全化に向け、臨時総会において定款を変更し基金を創設した。

運営資金の調達は会費、事業収入、協賛金、広告収入、補助金等であるが、基金は法律で規制されていて信頼性が高く、財務状況の改善を図ることに

抛出した基金は法人が解散する時まで返還しない。返還する場合は返還相当額を代替基金として積立が必要となり、返還はJMSCAの財務状況次第である。返還の際に利息は付かない。

一種の負債であるが、会計基準上はこれを純資産ないし正味財産として扱うことができる。

募集の内容は、財産的基礎を成し、運営基盤を強化することを目的に、1口、5万円で総額5千万円を目標に第1期を3月8日に締め切り、3月26日を振込期限として正会員、顧問、参与、理事、監事を対象に募集を開始した。

スポーツフェスティバル登山大会 好天に恵まれ真富士山、文殊岳に登る

第17回しずおかスポーツフェスティバル登山大会が11月19日(日)静岡市山岳連盟の主管で真富士山及び竜爪文殊岳を会場として開催された。

静岡県中部の山岳会に所属する82歳から15歳までの老若男女24名の参加があった。大会役員12名、その他に駐車場管理人・俵峰駐在各1名で実行した。

当日、7時の受付開始時間前から薄暗い中、参加者は、三々五々駐車場に集合した。計画を早め8時30分、大会会長の木ノ内高嘉氏の挨拶で開会をした。

コースは2つ、名倉健



真富士山山頂



文殊岳山頂

児隊長のもと随員2名、

男子宮川(中2) 女子堀内(中3) 優勝

クライミングコンテスト2月大会

2月12日に浜松市のスクエアクライミングセンターにて、クライミングコンテストが行われ、男子22名、女子11名が参加した。

男子予選は緩傾斜の課題であった。下部は持ちやすいホールドが続ぎ、中間部でポケットからスローパー、ピンチへと進む。最上部へ入る直前が第1の関門であった。スローパー気味のホールドをおさえながらのカチが



男子はルーフに入るところで3人がフォール、抜けるところで

参加者18名で、真富士山を目指すA隊。もう一つは、赤堀正隊長のもと随員2名、参加者6名で竜爪文殊岳を目指すB隊。晴れ渡った青空のもと8時50分、二隊はそれぞれ出発した。

所要所で、無線連絡を取りながら、大会の状況を確認しながら大会を進めた。天候に恵まれ、順調に大会は進み、A・B隊とも計画より早く無事に下山し、15時30分閉会式を行った。

(篠崎 勇)

決勝は男女ともに同ルートで、中間部にルーフがある壁面を登った。ルーフ直前の薄いホールドからバランスをとって、次のホールドへと向かうところが最初の核心となる。ルーフ内ではガバホールドがあり、そこを抜ける

3人がフォールし、最終面で勝負が決まる。TOPが3人となりタイム差で1位が宮川、2位が船越、3位が鈴木という結果になった。

今回はセッターに日体高校卒の原さんを招き、今までとは違ったテイストの課題で試合ができた。(岩田幸裕)

男子			
1位	宮川 幸大	清水第一中	中学2年
2位	船越 琉生	長田南中	中学3年
3位	鈴木 大翔	藤枝西高	高校3年
4位	中川 琥大朗	池新田高	高校1年
5位	川口 太造	東海大翔洋中	中学2年
6位	岡部 蒼空	北浜北小	小学6年
7位	岡部 星輝	浜松東高	高校1年
8位	竜口 夏希	葵ヶ丘小	小学6年
9位	矢澤日向汰	横内小	小学6年
10位	齋藤 颯馬	広見小	小学5年
女子			
1位	堀内 優里	大洲中	中学3年
2位	狩野 風	天竜中	中学3年
3位	込山 虹来	籠上中	中学2年
4位	山本 唯菜	城山中	中学2年
5位	蒔田 遙	黒石小	小学6年
6位	佐野 愛莉	沼津第四中	中学3年

26年冬季五輪追加種目SKIIMO

JMSCAでは、2月15日、26年ミラノ・コルティナダンペッツォ冬季五輪の追加競技として山岳スキー競技「SKIIMO(スキーモ)」のプレス発表会を開催した。

SKIIMOは(Ski Mountaineering)の略で、スキーと登山を融合した欧州発祥の山岳競技。雪山の決められたコースで、スキー滑走をはじめ、急峻な斜面をスキーを履いて登ったり、スキーを担いで登つ

たりして着順を競う。五輪では「スプリント」と「混合リレー」が実施される予定。

スプリントは標高差80mほどのグレンデ内の斜面の中をスキーで登り、スキーを外して歩いての登りとスキー滑降を合わせて一周3〜5分程度のコースを設定して、争われるスピード感あふれた競技である。混合リレーは、スプリントのコースをやや拡大したコースを、男女各1名が2周ずつするレースである。

